原　　文（指摘事項・指摘事由）		修　正　文
発展　キリスト教の発展とモンゴル帝国	学習指導要領の「内容」の（3）ア「武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立……社会的な変動を通して理解させるとともに，元寇，日明貿易，琉球の国際的な役割など，その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる」に示す内容を学習指導要領に示していない内容として取り扱っており、不適切である。	（「発展　キリスト教の発展とモンゴル帝国　13世紀の世界」は，「深める歴史5　キリスト教の発展とモンゴル帝国　13世紀ころの世界」というテーマ学習として，該当箇所におく。）

発展

キリスト教の発展とモンゴル帝国

13世紀の世界

『ベリー公のいとも豪華な祈禱書（カレンダー）』
左：3月　畑などの手入れの場面。前面では車輪をつけたすきを牛に引かせて畑をたがやしているようすがみられ、後面の森ではブドウの枝をととのえているようすがみられます。
右：11月　ブタの世話をしている場面。ブタを森に追いこんでドングリなどの木の実を食べさせています。肉は塩漬けやソーセージに加工して、冬にそなえました。

ヨーロッパの封建社会

ヨーロッパでは地中海の周辺で、ギリシャ・ローマなどの古代文明が早くから栄えましたが、アルプスより北の西ヨーロッパは、長いあいだ後進地域でした。4世紀後半、アジア系遊牧民の侵入を受けたゲルマン人は、ドナウ川をわたって西ヨーロッパ地域に移動をはじめ、次つぎと国を建てました。なかでもフランク王国がもっとも勢力をひろげました。

この時代、フランク王国では騎士と領主（諸侯）、さらには諸侯と国王とが、領地をあいだに主従関係をむすんでいました。諸侯は、領地内の農民を支配し、国王に忠誠を誓い、国王のために騎士を率いて戦う義務がありました。このような封建社会は、15世紀ころまでつづきました。

13世紀に建てられた大聖堂（フランス、シャルトル）　このような大聖堂は、ヨーロッパの各地に建てられました。

ヨーロッパの森

11世紀ころまでの西ヨーロッパは、「眠れる森の美女」や「白雪姫」などのお話にみられるような深い森におおわれていました。おいしげる木はモミやカシやブナです。人びとの生活にとって森は、建築用の木材、燃料としての薪や木炭、ブタの飼料などとしての木の実をもたらしてくれました。しかしこうした生活は、12世紀にはいって大きく変化しました。鉄製の道具が普及して、森林が切り開かれ、各地で新たな農地の開墾がすすめられるようになったのです。その結果、穀物の収穫は増え、11世紀から13世紀にかけて西ヨーロッパの人口は急速に増加しました。

深める歴史 5

キリスト教の発展とモンゴル帝国

13世紀ころの世界

『ベリー公のいとも豪華な祈禱書（カレンダー）』
左：3月　畑などの手入れの場面。前面では車輪をつけたすきを牛に引かせて畑をたがやしているようすがみられ、後面の森ではブドウの枝をととのえているようすがみられます。
右：11月　ブタの世話をしている場面。ブタを森に追いこんでドングリなどの木の実を食べさせています。肉は塩漬けやソーセージに加工して、冬にそなえました。

◆ヨーロッパの封建社会

ヨーロッパでは地中海の周辺で、ギリシャ・ローマなどの古代文明が早くから栄えましたが、アルプスより北の西ヨーロッパは、後進地域でした。4世紀後半、アジア系遊牧民の侵入を受けたゲルマン人は、ドナウ川をわたって西ヨーロッパ地域に移動をはじめ、次つぎと国を建てました。なかでもフランク王国がもっとも勢力をひろげました。

中世ヨーロッパではフランク王国以降、騎士と諸侯、諸侯と国王とが、それぞれ領地をあいだに主従関係をむすんでいました。これらの領主は、領地内の農民を支配するいっぽうで、主君に忠誠を誓い、主君のために家臣を率いて戦う義務がありました。このような封建社会は、

13世紀に建てられた大聖堂（フランス、シャルトル）　このような大聖堂は、ヨーロッパの各地に建てられました。

ヨーロッパの森

11世紀ころまでの西ヨーロッパは、「眠れる森の美女」や「白雪姫」などのお話にみられるような深い森におおわれていました。おいしげる木はモミやカシやブナです。人びとの生活にとって森は、建築用の木材、燃料としての薪や木炭、ブタの飼料などとしての木の実をもたらしてくれました。しかしこうした生活は、12世紀にはいって大きく変化しました。鉄製の道具が普及して、森林が切り開かれ、各地で新たな農地の開墾がすすめられるようになったのです。その結果、穀物の収穫は増え、11世紀から13世紀にかけて西ヨーロッパの人口は急速に増加しました。

原　　文（指摘事項・指摘事由）

キリスト教の発展

キリスト教はローマ帝国とともに，ヨーロッパの宗教となり，さらに，ゲルマン人にもひろまっていきました。やがて，ゲルマン人の国王や諸侯は，教会に土地を寄付してこれを保護したため，大きな勢力となる教会もでてきました。これらの頂点にたつローマ教皇（法王）の権威は高まり，キリスト教会が，信仰だけでなく社会の秩序をつくる役割をはたしていくようになりました。そして，学問・芸術もキリスト教の教えを中心としたものとなっていきました。

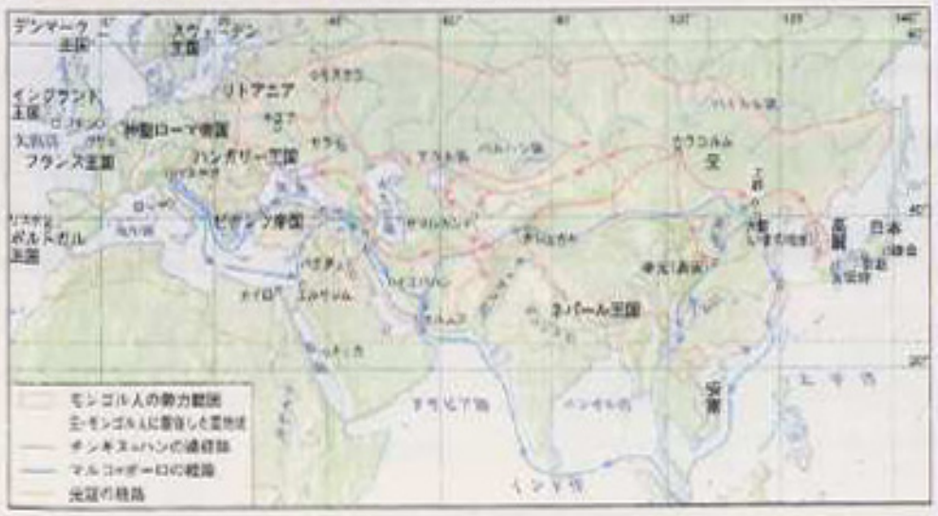
モンゴル帝国

13世紀から14世紀にかけて東アジアと内陸アジアは，大きな変化がみられました。内陸アジアの草原地帯で遊牧生活をおくってきたモンゴル人のなかからでたチンギス＝ハンがすぐれた騎馬軍団を率いて遠征を開始し，中央アジアからカスピ海にまで達しました。その後，かれの孫のフビライ＝ハンは，モンゴル帝国の中心を中国北部に移して国名を元とさだめ，北京に都をおいたのち，中国を統一し，朝鮮半島の高麗を支配下におさめました。

□「東方見聞録（世界の記述）」　広大な地域を支配し，東西交通にも力をいれていた元には，ヨーロッパの使者やイランなどの商人がたくさん訪れました。イタリアの商人であるマルコ＝ポーロは，元を訪れ，フビライにつかえました。かれが帰国後に語った「黄金の国，ジパング（日本）」などの話は本としてまとめられ，ヨーロッパ人のアジアへの関心を高めました。

チンギス＝ハン

□13世紀の世界



修　正　文

15世紀ころまでつづきました。

◆キリスト教の発展

地中海沿岸で信仰されるようになったキリスト教は，ゲルマン人にも信仰されるようになり，しだいにヨーロッパにひろまっていきました。やがて，ゲルマン人の国王や諸侯は，教会に土地を寄付してこれを保護したため，大きな勢力となる教会もでてきました。これらの頂点にたつローマ教皇（法王）の権威は高まり，キリスト教会が，信仰だけでなく社会の秩序をつくる役割をはたしていくようになりました。そして，学問・芸術もキリスト教の教えを中心としたものとなっていきました。

◆モンゴル帝国

13世紀から14世紀にかけて東アジアと内陸アジアには，大きな変化がみられました。内陸アジアの草原地帯で遊牧生活をおくってきたモンゴル人のなかからでたチンギス＝ハンがすぐれた騎馬軍団を率いて遠征を開始し，中央アジアからカスピ海にまで達しました。その後，かれの孫のフビライ＝ハンは，モンゴル帝国の中心を中国北部に移して国名を元とさだめ，北京に都をおいたのち，中国を統一し，朝鮮半島の高麗を支配下におさめました。

□「東方見聞録（世界の記述）」　広大な地域を支配し，東西交通にも力をいれていた元には，ヨーロッパの使者やイランなどの商人がたくさん訪れました。イタリアの商人であるマルコ＝ポーロは，元を訪れ，フビライにつかえました。かれが帰国後に語った「黄金の国，ジパング（日本）」などの話は本としてまとめられ，ヨーロッパ人のアジアへの関心を高めました。

チンギス＝ハン

□13世紀の世界